

農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

タイトル 人・農地プラン策定への参画事例

J A 名 兵庫六甲（兵庫県）

1 動機 (経緯)	<p>食料の安定供給、地域社会の維持のため、農家数の減少を最小限に食い止めつつ、新規就農者の確保や担い手への農地利用集積の促進を図り、集落の話し合いに基づいた地域の中心経営体の決定が必要です。</p> <p>しかし、農業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など「人と農地」の問題があり、5年後、10年後の展望が描けない集落が増えています。</p> <p>このような状況に歯止めをかけるため、関係機関と協力・連携を行い集落内の話し合いによる「人・農地プラン」の作成支援を進めています。</p>
2 概要	<p>地域農業の活性化をはかるため、今後、地域の中心となる担い手の確保や農地の集積など地域の将来像についてまとめた「人・農地プラン」の策定や見直しの推進を行っています。</p> <p>具体的には、関係機関と連携を行いプラン作成に前向きな集落や担い手がいる集落を「重点集落」と位置づけて、積極的に状況把握や出向いての相談活動、プランの作成支援を行っています。</p>
3 成果 (効果)	<p>J A 兵庫六甲管内の「人・農地プラン」作成件数は、平成24年度は、3プランの作成を行いました。また、平成25年度には、39プランの作成実績となっています。</p>
4 今後の 予定 (課題)	<p>「人・農地プラン」の作成を集落営農組織の立ち上げを行うきっかけづくりと位置付け更なる推進を行います。</p> <p>新規就農者に対しては、地区外に居住するなどの理由から、地元集落との良好な関係がとれずに集落同意を得られない場合があることから、新規就農者へ地元作業等への参加を呼びかけるなど地元集落との良好な関係を築かせることが必要です。</p> <p>また、プラン作成は、個人のメリットが大きいと認識されており、十分な説明・話し合いの場づくりが必要です。</p>